

繋ぎ言葉の宝庫

接 続 語



つなぎ言葉は「接
続語」とも言うよ。

() 年 () 組 名前 ()



編集
発行

高原町教育研究所
平成21年10月

高原町の児童・生徒のみなさんへ
保護者の皆さまへ

高原町教育委員会では、町内の教育研究所の先生方（各学校一名の先生）をお願いして「小・中学生の国語の基礎学力を高める」取組を研究してもらっています。

研究を進める中で、「使えるつなが言葉ポケット集」を作って、小学生や中学生のみなさんに、国語の学習などで活用してもらうことにしました。

私たちは、学校や家庭などのいろいろな場で、自分の考えを友だちや先生、おうちの人などに話したり、また、自分の考えを文章に書いたりしています。

「話すとき」や「書くとき」に、「文と文をつなぐ言葉（接続語とも言います。）」

を使う事によって、話していることや書いた文章の、前と後のつながりが相手によくわかるようになります。

この「ポケット集」を使って、児童・生徒のみなさんの「話す力や書く力」が、ますます向上することを願っています。

※

「接続語」の学習は、現在使っている教科書では、小学校四年生で学習しています。小学生の皆さんは、何回も読んで使います。中学生の皆さんは、復習するつもりで読んでみてください。

理由を表す言葉

●なぜかというと
●そのわけは
●というのも
●それで
●～から
●～ので

なぜかというと
そのわけは
というのも

を使うときは、最後
に「～から、～ので」
をつけましょう。

この言葉の仲間、次のような時に使います。

- ①「ここから後が理由ですよ」ということを知らせる時
(なぜかというと、そのわけは、というのも)
- ②理由を前で説明する時(それで)
- ③理由をはっきりと示す時(～から、～ので)

ポイント

理由を前に書くか(話すか)、後で書くか(話すか)と
いうことを考えて使おう。

《使い方》

○○○○…理由

『なぜかというと』

このおもちゃは買えません。なぜかというと、お金が
足りないからです。

『そのわけは』

この問題は全部できませんでした。そのわけは、時間
が足りなかったからです。

『というのも』

今日はお風呂に入れません。というのも、足をけがし
てしまったからです。

『それで』

きのうから雨がふっている。それで、今日の運動会は
中止になった。

『～から』『～ので』

記録が出なかったのは、練習していなかったからです。
この前は泳げたので、自信があります。

まとめ・結果を表す言葉

●だから
●つまり
●このように
●こうして

だからとつまり

だから
|| 会話で使う

つまり
|| 文章で使う

この言葉の仲間は、次のような時に使います。

①理由（原因）と結果（こうなった）をつなぐ時

②文章をまとめる時 （このように、こうして、つまり）
（だから、つまり）

ポイント

①は理由と結果をつなげる言葉なので、理由と結果がないと使えないよ。

②を使う時には、例や様子などを前に書いておかないと使えないよ。

《使い方》

○○○…理由 □□□…結果

『だから』

今朝はねぼうしてしまった。だから、学校に遅刻した。

『つまり』

車で出かけようと思いましたが、ところが、車が故障していました。つまり、出かけられないということです。

『このように』

車の中は雨の日でもぬれません。車では色々な場所に行けます。キャンプの時、車の中でねることが出来ます。

このように、車というのは便利なものです。

『こうして』

ぼくは、毎日さか上がりの練習をしました。雨の日も暑い日もがんばって練習しました。時々「もうやめようかな。」とくじけそうになることがあります。でも、さか上がりができるようになりたいと思って、歯をくいしばって練習しました。

こうして、ついにさか上がりができるようになりました。

話を広げるための言葉

●すると
●では
●そこで
●実は

実は

「実は」は中学生レベル
の言葉です。
使い方が分かったらど
んどん使ってみよう。

この言葉の仲間、次のような時に使います。

①ある内容について、さらに話を広げる（展開する）時
（すると、では、そこで、実は）

ポイント

この言葉は「話を広げる」時に使うことばなので、この言葉を使う前には、必ずもとの話を書く（話す）ようにしよう。

話を広げる時には、話の内容によって段落を分けて書いた方がいいときがあるよ。

《使い方》

『すると』

たかお君は、ドアの前に立ちました。
すると、勝手にドアが開きました。

『では』

人間は、普段の生活の中で、必要に応じて様々な道具を使っています。

では、人間以外に道具を使って生活する動物はいないのでしょいか。

『そこで』

たか子さんの家では、この夏に双子の赤ちゃんが生まれました。家族は、六人になり部屋がせまくなつてしまいました。

そこで、たか子さんたちは、大きな家に引っ越す計画を立てました。

『実は』

誰もいないはずの部屋に突然明かりがともった。

実は、このトリックはとても簡単な仕組みでできているのだ。

付け加えを表す言葉

●さらに
●そして
●ほかにも
●それから
●また
●しかも
●そのうえ

前の文に話を付け加える時に使うと、文がすっきりして分かりやすくなります。

この言葉の仲間、次のような時に使います。

①前のことがらに付け加えたい時や前のことがらをさらにくわしく説明する時。

ポイント

どれも二回続けて使わないように気をつけよう！

×悪い例

部屋を片付けた。それから、引き出しの整理をした。それから、窓をみがいた。・・・

《使い方》

『さらに』

空が急に暗くなり、大つぶの雨が降ってきた。さらに、かみなりも鳴り出した。

『ほかにも』

お父さんは私を、海や山など自然があふれるところに連れて行ってくれた。ほかにも、博物館や資料館など歴史を感じる場所にも連れて行ってくれた。

『しかも』

大山くんはサッカーが上手だ。しかも、勉強もできる。

※ 何度も付け加えたい時

つゆが明け、久しぶりに友達と外で遊んだ。まず、公園でサッカーをした。それからかくれんぼをした。さらにに野球もした。他にもおかしを食べたり、ブランコにのったりした。

例を表す言葉

● 例えば

● もし（も）

● まるで

～のようです

例えば

もし（も）

まるで～のようです

を使うことで、より分かりやすく話すことができます。

この言葉の仲間も、次のような時に使います。

- ① 具体的に例えをあげる時（**例えば**）
- ② 何か別の物に例える時（**もし（も）**）
- ③ そうだろうと考える時（**まるで～のようです**）

ポイント

相手に伝わりやすくするために、話の内容によって①②③のどの例え方をするのがよく分かるかを考えて使い分けよう。

《使い方》

『例えば』

くだものには色々なものがあります。

例えば、りんご、なし、かきなどが挙げられます。

『もし（も）』

もし、ドラえものの道具があつたら、ぼくは、どこでもドアで火星にいつてみたいです。

『まるで～ようです。』

チンパンジーは、ぼうを木の皮などにさしこんで、しばらく待ちます。オオアリがかみつくと、引き出して食べてしまいます。**まるで**、つりをしている**ようです**。

× まるで□□□です。

○ まるで□□□ようです。

反対を表す言葉

- しかし
- だが
- けれども
- でも
- ところが
- 逆に
- これに対して

反対を表す言葉はたくさんあるけど、文章にあった言葉を使うようにしよう。

この言葉の仲間、次のような時に使います。

① 前の文と反対のことを伝える時

(しかし、だが、けれども、でも、ところが、逆に)

ポイント

昨日は、公園で遊んで楽しかったね。雨がふってきたのが残念だったね。

でもを使うと分かりやすくなるよ！

↓
昨日は、公園で遊んで楽しかったね。でも、雨がふってきたのが残念だったね。

《使い方》

『しかし』

試合が始まってすぐに激しい雨が降ってきた。しかし、試合は中断することなく続けられた。

『でも』

ぼくは、漢字が苦手だ。毎日漢字の練習をするのはとても辛い。でも、がんばって練習すれば、きっとテストで満点がとれるはずだ。

『ところが』

前半は相手チームの調子が良く、二点リードされてしまった。ところが、後半に三点を取り返し、逆転で勝つことができた。

話をかえる言葉

● ところで
● さて
● では
● 一方

この言葉の仲間、次のような時に使います。

① 話の内容をかえたり、話題をかえたりする時

ポイント

ところでを使うと、分かりやすく伝えることができるよ！

「こんにちは。ご両親はお元気ですか。」

「こんにちは。ところで、ご両親はお元気ですか。」

ところで
さて

などは、手紙で本題に入る前にもよく使われます。

《使い方》

『ところで』

「昨日は、本を貸してくれてありがとう。とてもおもしろい本だったよ。ところで、この前かした本はどうだったかな。」

『さて』

「今日のテストはむずかしかったなあ。さて、テストも終わったし、まんがでも読もうか。」

『では』

人間以外にも道具を使う動物がいる。では、道具を使う動物をいくつか紹介しよう。

『一方』

彼女は試験に向けて夜中まで勉強していた。一方、彼は夕食の後、すぐに寝てしまった。

同じ内容を並べる言葉

- ○○たり、△△たり
- それとも
- あるいは
- および

それとも

は、ぎもんをなげかける時に使います。

この言葉の仲間、次のような時に使います。

- ② 同じような内容を、続けて並べるときに使う言葉。

ポイント

「たり」を使う時には、必ず「たり、たり」と二回続けて使おう！

×悪い例

昨日、友達の家に行きました。サッカードしたり、テレビを見て遊びました。

◎良い例

昨日、友達の家に行きました。サッカードしたり、テレビを見たりして遊びました。

《使い方》

『○○たり、△△たり』

学習発表会では、みんなでぎきをしたり、歌をうたったりしました。とても楽しかったです。

『それとも』

「あなたの家は、学校から遠いですか。それとも近いですか。」

『および』

今回の参加者は六年生および、その保護者の方になります。

じゅんじょを表す言葉

《使い方》

●はじめに（まず）
つぎに
最後に

●〇つあります
一つ目は…
二つ目は…

じゅんじょを表す
言葉を使うと、聞
く人にとって分か
りやすい文になり
ます。

この言葉の仲間は、次のような時に使います。

①時間の流れにあわせたり、いくつかの話を分かりやすく表現したりするときに使う言葉。

ポイント

はじめに（まず）
つぎに
最後に

と
〇つあります
一つ目は…
二つ目は…

は、それぞれセットで使おう！

『はじめに（まず）、つぎに、最後に』

遠足に行きました。はじめに、バスに乗って御池に行きました。

次に、公園でお弁当を食べました。

最後に、ゴミを拾って、バスで帰りました。とても楽しかったです。

『〇つあります、一つ目は…、二つ目は…』

わたしは、この一年間でがんばりたいことが三つあります。

一つ目は野球です。

二つ目は勉強です。

三つ目は家の手伝いです。

文章で書くときには、段落を分けて書くと分かりやすくなるね。

意見を強く表す言葉

● それでも

● しかも

● せいどころか

● にもかかわらず

意見を強く表す言葉は、意見文や弁論などで使うと、より自分の意見を相手に伝えることができます。

この言葉の仲間は、次のような時に使います。

- ① あることがらを強く主張する時。(それでも、しかも)
- ② 前の内容と逆のことを強く主張する時。(せいどころか、にもかかわらず)

ポイント

前の文章の内容によって、①と②の意味を考えて言葉を使い分けよう。

《使い方》

『それでも』

失敗の可能性は大きい。それでも(そうであつても)やめるわけにはいかない。

『しかも』

あの方はわたしの恩師で、しかも命の恩人だ。

『せいどころか』

君に文句などない。せいどころか感謝したい気持ちだ。

『にもかかわらず』

疲れがひどかった。にもかかわらず、がんばった。